

**神奈川区地域子育て支援拠点事業
平成31年度重点目標評価結果・次年度重点目標**

事業実施期間	平成31年4月1日～令和2年3月31日(3年度目／5か年度)
事業の実施者	特定非営利活動法人親がめ 神奈川区こども家庭支援課
事業目的	<p>市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 神奈川区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営 2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営 3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営 4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営 5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることのできる視点に立った運営 6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。 2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。

令和元年度重点目標の評価

令和元年度重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ●平成31年度より神奈川区で実施される・母子保健コーディネーターモデル事業(利用者支援事業)に伴い、区福祉保健センターと地域子育て支援拠点が、それぞれの特徴を活かして連携・協働します。妊娠期からの支援として、より具体的に「産後の暮らし」をイメージできる事業を行い、妊娠期から地域に繋がるよう取組みます。 ●就労型社会へと移り変わり、家庭のあり方も多様な時代へと変化する中、いろいろな調査報告に表われた乳幼児を持つ子育て世代のニーズを感知し、地域と共に学び、語り合う機会をつくります。
取組内容	<p>○平成31年度4月より神奈川区で実施される・母子保健コーディネーターモデル事業(利用者支援事業・母子保健型)と、地域子育て支援拠点(利用者支援事業・基本型)、保育教育コンサルジュ事業(利用者支援事業特定型)が日常的に連携して、妊娠期からの切れ目ない支援を目指します。</p> <p>○「はじめての子どもが生まれる前に、赤ちゃんの世話をしたことがない人が74、4%」(横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査・平成30年11月より)とあることを受けて、出産し退院後からの赤ちゃんがいる暮らし(おむつ替え・着替え・抱っこの仕方・遊び方・沐浴・赤ちゃんが泣いて困ったとき・自分自身のケアなど)の具体的な方法について、少し先の先輩親の体験談と交流を交えて、伝える時間をつくります。</p> <p>○早期に仕事復帰する人が増える中、短い限られた時間に、親子が地域の中で育てられ、支えられているという実感・体感を得られる機会を積み重ねられるよう、地域の力を活かし協働していきます。</p>

取組の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度4月より神奈川区で実施された母子保健コーディネーターモデル事業(利用者支援事業・母子保健型)における母子保健コーディネーター、事業担当保健師、地域子育て支援拠点が日常的に連絡を取り合い、区・拠点・地域のネットワークを活かし、連携を深めました。 ・母子保健コーディネーターが、年間を通して拠点の妊娠期・産後数か月の人を対象とした複数の定例事業や、テーマ別に開催している当事者間での語り合いタイム「なかまトーク(双子みつご・国際交流・アラウンド40)」、カウンセラーの心の整理術等に、参加しました。身近な地域(拠点ひろば)において、妊娠期・産後数か月の人達の生の声やニーズ(体調不良、子育て初期の大変さ、不安など)を聴き取り、顔を繋げる機会になりました。 ・妊娠期の人のニーズが高い、保育教育コンシェルジュと横浜子育てパートナーの共催事業「保育・教育コンシェルジュと話そう、保育のお話し基本のキ」への参加を促し、拠点利用や地域に繋げる契機づくりとしました。 ・出産後の生活のイメージに繋げ、少しでも不安を軽減するために、妊娠期対象事業と産後数か月期対象事業を同時に開催しました。妊娠期の人が乳児を抱っこする等のふれあいや、ちょっと先輩達の活きた情報や体験談を語り合う時間を多様につくり、産後の暮らし方について、考え見つめ直す時間に繋げました。 ・出産し退院後からの赤ちゃんがいる暮らし(おむつ替え・着替え・抱っこの仕方・遊び方・沐浴・赤ちゃんが泣いて困ったとき・自分自身のケアなど)の具体的なテーマを取り上げ、年間を通して体験タイムを開催しました。 ・区の両親教室、窓口での丁寧な拠点の情報提供から、上記事業へのプレパパ・プレママの来所に繋がりました。 ・早期に仕事復帰する人が増える中、短い限られた時間に、親子が地域の中で育てられ、支えられているという実感・体感を得られる機会を積み重ねられるよう、区内地域包括エリア7か所の地域別情報を一人ひとりに手渡し、丁寧に伝え、地域につなげました。また、職場復帰後も拠点や地域に繋がる機会として、「ワーキング親トーク」を土曜日に開催し、当事者ならではの共感や情報交換等を語り合う時間をつくりました。 ・初めまして赤ちゃんプログラム「2回連続講座」を毎月開催し、初めての出産、子育てに不安やとまどいを抱えがちな人達同士が、主に自分のケアについて語り合う時間を重ねました。事後グループも複数生まれました。 それにより、利用回数が多い親達がひろばを支える姿や、一人ひとりの力を活かしたひろばの時間も生まれました。 ・地域のすくすくかめっ子地域別交流会や、かなーちえのネットワーク交流会、地域ケアプラザネットワーク等で、子育ての現況を学ぶ機会をつくりました。
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●妊娠期からの子育て支援が地域に浸透するような取り組みを、引続き、地域や区(横浜市子育て世代包括支援センター)と共に検討、協働し、切れ目のない子育て支援につなげていく必要があります。 ●20周年を迎える「すくすくかめっ子」事業の、意義、あゆみや効果を区と共にまとめ、地域との共有を図り、地域力に支えられた「すくすくかめっ子」活動の継続サポートが重要です。

次年度重点目標

令和2年度重点目標	令和2年度に有識者を交えた事業評価を実施するため省略します
取組内容	